

# さぬき 水田営農だより

## 経営所得安定対策等交付金 交付申請の手続きはお済みですか？

平成28年産の**交付申請書**の提出は、**6月30日(木)**までとなっています。

申請予定の方は、最寄りの地域農業再生協議会(市町、JA)又は中国四国農政局香川支局へ早めに提出をお願いします。なお対策の内容については、「さぬき水田営農だより」第68号に掲載しています。※過去の水田営農だよりはホームページに掲載(4Pの下のアドレス)

### お問い合わせ先<経営所得安定対策関係>

中国四国農政局 香川支局 経営所得安定対策チーム

電話：087-831-8185

フリーダイヤル：0120-38-3786 受付時間 (平日)9:00~17:00

## 飼料用米の作付で水田の有効活用を

**調整水田等の不作付地**は、**飼料用米の作付**を行うなど**水田の有効活用**に努めましょう。

特に一括管理の飼料用米は、主食用米と同じ品種を作付でき、水田活用の直接支払交付金(戦略作物助成8万円/10a)や産地交付金(新規需要米加算1~1.2万円/10a)も活用できます。

※一括管理の飼料用米に主食用品種で取り組みJA出荷に変更する場合、営農計画書を提出済みの方は記載内容の修正が必要になります。

飼料用米は畜産農家等の需要もあり、交付金等の確実な収入も見込めます。不作付地を解消し、水田の維持を図りましょう。



# 「これからの香川の米を考える」その①



米の生産調整については、平成30年産以降、行政による生産数量目標の配分が行われなくなり、国から提示される需給見通し等を踏まえ、売れ残りが発生しないよう、需要に応じた生産を進める必要があります。今後は、米価の安定のため、農業者が自らの経営判断に基づいて、主食用米の生産を行うとともに、飼料用米、加工用米等の非主食用米や麦・大豆などの取組みを進めることにより、水田を有効活用し、経営の安定化を図ることが求められます。

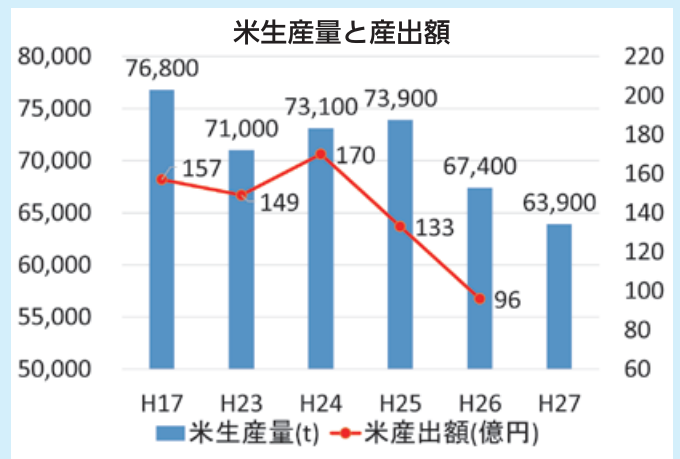
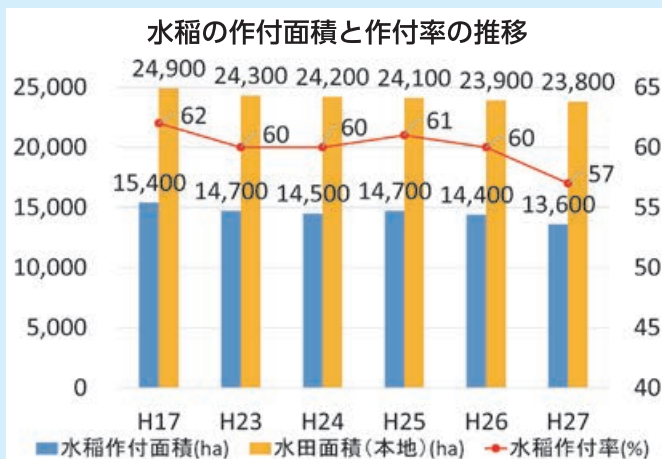
こうしたことから今後の香川の米生産、水田農業のあり方をみんなで一緒に考えていくため、現状や課題、今後の方向性などについて、これから数回に分けてお知らせします。

## 米生産の現状

### <主食用米>

#### ① 作付面積、生産量、産出額

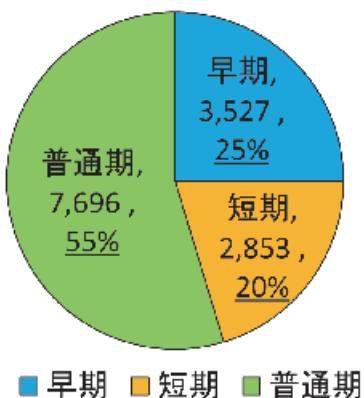
- ・ 作付面積は、年々減少、それに伴い生産量も減少しています。
- ・ 米の産出額も減少傾向にあり、平成26年産は全国的な米価下落もあり96億円（対前年比72.2%）と大きく低下しました。



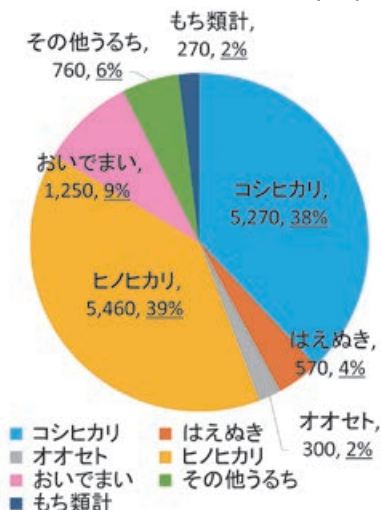
#### ② 作期、品種構成

- ・ 作期は早期（4月～5月15日植早生品種）、短期（5月16日～31日植、6月植早生品種）、普通期（中生品種等）に大別され、それぞれ25%、20%、55%と普通期が約半分を占めています。
- ・ 品種は早生品種の「コシヒカリ」が38%、中生品種の「ヒノヒカリ」が39%で、両品種で約8割を占めています。県オリジナル品種「おいでまい」は9%となっています。
- ・ 水稻後の二毛作の麦は、麦全体の68%となっています。

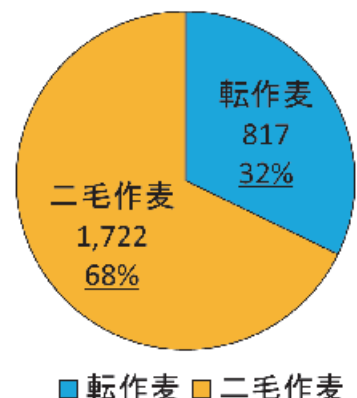
H27産作期別作付面積 (ha)



H27産品種別作付面積 (ha)

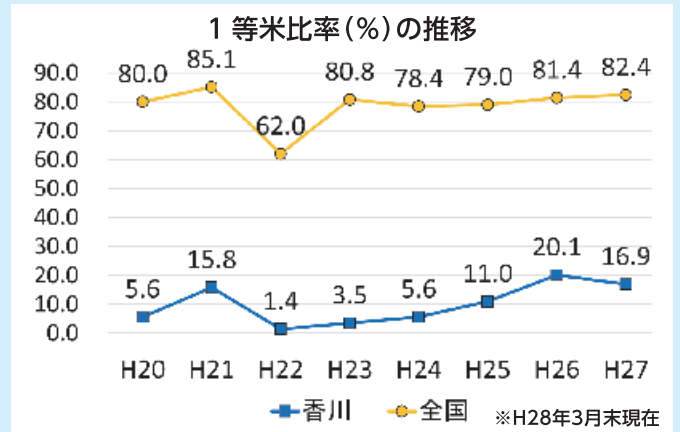
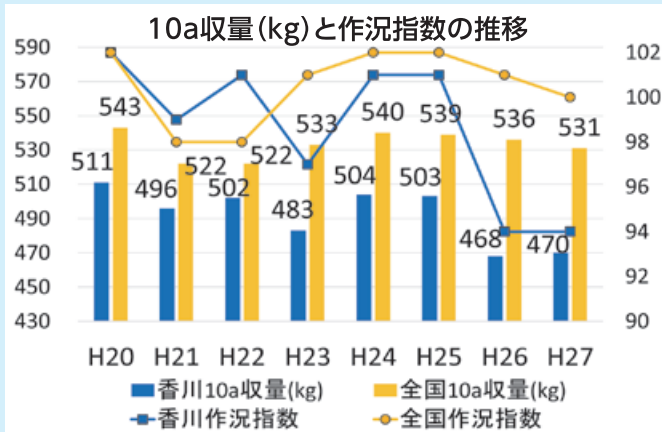


H27産麦作付面積 (ha)



### ③収量、品質

- ・収量は、10a当たり500kg前後で推移していますが、平成26年、27年産は約470kgと低くなりました（作況指数はいずれも94）。
- ・品質は、1等米比率で見ると全国が80%前後で推移しているのに比べて、本県はかなり低く推移しています。



## <非主食用米>

### ①新規需要米（飼料用米、米粉用米、WCS用稲）の作付面積

- ・粳・玄米を家畜飼料とする飼料用米は、375haと前年産の約5倍に増加しました（平成27年産、うち一括管理308ha、区分管理67ha）。
- ・茎葉を含む稲全体を発酵粗飼料とするWCS用稲は、徐々に増加しています。
- ・小麦粉の代替として米粉パン等の原料となる米粉用米は、平成26年産を除き、10haを超えて作付されています。

### ②加工用米、備蓄米の作付面積

- ・加工用米は、酒造用米として県オリジナル品種「さぬきよいまい」と「オオセト」が作付されています。
- ・備蓄米は、緊急時に備え蓄える米として政府が毎年一定量を買っています。本県では、平成27年産は優先枠はありましたが、入札価格が低いことから取り組みませんでした。

#### 新規需要米等の作付面積の推移

(単位：ha)

	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産
飼料用米	92	115	28	76	375
(うち一括管理)	(63)	(83)	(4)	(33)	(308)
(うち区分管理)	(29)	(32)	(23)	(42)	(67)
※うち専用品種			※23	※37	※57
米粉用米	13	18	12	5	12
WCS用稲	28	33	37	44	55
新規需要米計	133	166	77	125	442
加工用米	0	0	0	30	85
備蓄米	117	0	105	186	0
合計	250	166	182	341	527



## 「飼料用米多収日本一」コンテストが開催されます。

飼料用米生産農家の生産水準の向上を目指し、生産技術の面から他の模範となる先進的な経営体を表彰し、その成果を広く紹介するため、今年から初めて開催されます。

### ●参加資格

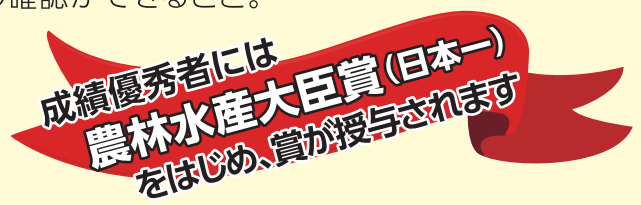
- ・多収品種（知事特認品種含む）の生産を行い、かつ、面積がおおむね1ヘクタール以上であること。
- ・生産コストの低減や規模拡大等に取り組んでいること。
- ・区分管理による出荷を行っており、生産面積、出荷量の確認ができること。

### ●スケジュール等

応募期間：平成28年5月2日～6月30日  
 確定収量の報告：平成29年1月末  
 審査：平成29年2月  
 表彰式：平成29年3月（東京都内）

### ●応募・問合せ先

中国四国農政局生産部生産振興課（岡山市北区下石井1-4-1岡山第2合同庁舎）TEL 086-224-9411





# 水稲(普通期栽培)の初期管理のポイント



最近では気象変動が大きく温暖化等の影響から、病虫害の発生や登熟期の高温障害などによる収量や品質の低下が指摘されています。特に本県では、ここ2年連続で作況指数が94と収量が低くなっています。そこで、特に収量・品質の安定化に重要な初期管理のポイントをまとめましたので、「水稲栽培しおり」を参考にして、収量の確保と品質向上に努めましょう。

効率的な病虫害防除には、田植え前に**育苗箱処理剤を必ず散布**。良質米生産には、**密植を避け、適正な株間、植付本数、植付深度**で田植え。健全な生育のためには、**間断灌水**で水管理。

## ポイント 1 育苗箱防除

- いもち病、紋枯病、ウンカ類等に効果のある**育苗箱処理剤**を必ず施用します。
- ※ポット育苗等で箱剤が施用できない場合は、本田防除を必ず行います。
  - ※田植機の設定で株間を広げて苗のかきとり量を極端に少なくすると、効果不足となるおそれがあります(厚播きとせず、極端な疎植は避ける)。

## ポイント 2 田植え作業

- ①栽植密度→**株間18~22cm**(坪50~60株)  
**1株植付本数3~4本**
  - ②植付深度→**2~3cm**
- ※田植え作業開始直後に必ず抜いて確認してください。



## ポイント 3 雑草防除

- 田植え後は、適期に初期除草剤を散布します。
- ※藻の発生が予想される場合は、しおりの範囲内で早めに散布します。
  - ※散布後、大雨が予想される場合は、深水としないでください。
  - ※散布後は少なくとも7日間止水します。減水して田面が現れた場合はゆっくり水を足します。

## ポイント 4 水管理

- 初期除草剤処理後、少なくとも3~4日間は湛水を保ち、その後、田植え後15日~30日頃は、水を溜めたままにせず、**「間断灌水」**(入水した水が無くなり、小さなヒビが入るまで乾かし、その後入水することを繰り返すこと)とします。
- ※藻が発生したり、ガスが発生している場合は、根が傷み、生育不良になりやすいので注意してください。
  - ※間断灌水で乾かす程度は、粘質な土壌では強く、水もちが悪い水田では軽くするなど調節してください。

## 内容に関するお問い合わせ先

香川県農業協同組合中央会指導部指導課 TEL: 087-825-2503  
香川県農政水産部 農業生産流通課 TEL: 087-832-3418  
香川県農業再生協議会ホームページ <http://www.kagawa-saiseikyo.jp/>